

公益社団法人 私立大学情報教育協会  
2019年度第2回  
社会福祉学・英語教育・法律学・社会学・教育学・統計学・体育学・  
政治学・国際関係学・コミュニケーション関係学グループ  
分野連携合同会議議事概要

- I. 日時 : 令和元年11月2日(土) 14:00~16:00  
II. 場所 : TKP市ヶ谷カンファレンスセンター 6階 6E  
東京都新宿区市谷八幡町8番地 TKP市ヶ谷ビル (TEL:3-5227-6911)

III. 出席者

戸塚委員長・山路委員・森田委員・天野委員(社会福祉学分野)、田中委員長・山本委員・五十嵐委員(英語教育分野)、加賀山委員長・執行委員・中村委員・高寫委員(法律学分野)、犬塚委員・亀井委員(社会学分野)、渡辺委員・今泉委員(統計学分野)、林委員・佐渡友委員(国際関係学分野)、菊池委員(コミュニケーション関係学分野)  
事務局:井端事務局長、森下主幹、中村職員

IV. 議事の経過

田中委員長の議事進行により、分野連携アクティブ・ラーニング対話集会の具体的な開催内容について検討を行った。話題提供案の内容について確認を行うとともに、意見交流のテーマと内容の検討を行い、開催日時 場所、事前アンケート内容の確認と具体的な進め方について検討を行い、以下のとおり決定した。

1. 話題提供内容と提供者

① 法律学分野

話題提供者: 神奈川大学 学部教授 中村壽宏 氏  
タイトル: ICTを活用した「分野横断法政策等フォーラム型授業」の提案と実践  
内容: 答えが定まらないSDGsの課題を検討するため、ネット上で2大学3チームのゼミナールと多分野(NPO、学会、行政など)の有識者を交えて解決策を考察する法政策等フォーラム型授業の進め方についての実践状況を報告する。

② 統計学分野

話題提供者: 実践女子大学 間社会学部教授 竹内光悦  
タイトル: 価値創造型データサイエンス(DS)教育の取組み  
内容: 文系理系を問わず、すべての領域でデータサイエンスの基礎力を大学で教育する社会要請が高まっていることを踏まえ、文系女子学生を主体としたデータサイエンス実践型教育の授業事例として、ダイバーシティの視点から社会価値創造に向けた動機づけ教育の成功例を紹介する。

③ 社会学分野

話題提供者: 東北工業大学 ライフデザイン学部講師 亀井あかね 氏  
タイトル: 伝統文化の継承を図る調査演習(PBL)にICTを活用する授業改善の取組み  
内容: 伝統文化の継承の一つの課題として「祭りの運営」をテーマに地域人材の確保を目指してスマホなどを活用した調査実習を行うことによる、論理的思考や社会調査法の修得を通じた学修意欲の向上が見られたことを報告する。

④ コミュニケーション関係学分野

話題提供者: 青山学院大学 地球社会共生学部教授 菊池尚代 氏  
タイトル: 映像制作を通し、批判的思考力、創造力、倫理観、共生力を育成する授業改善の取組み  
内容: スマートフォンを利用した作品の制作、発表、ピアレビューを行わせることで、学生に批判的思考力、創造力、倫理観、共生力の育成を目指した授業改善についての取組みを紹介する。

⑤ 政治学分野

話題提供者: 明治大学 情報コミュニケーション学部准教授 川島高峰 氏

タイトル： SDGsの視点からICTを活用して国内外の課題解決を考察する授業改善の取り組み  
内容： 日本の人口減少社会と地方創生の進め方、途上国における持続可能な観光開発のあり方について、SDGsの多面的な視点からICTを活用して日本の学生と留学生が課題解決に取り組む授業の取り組みを紹介する。

#### ⑥ 社会福祉学分野

話題提供者： 立教大学 コミュニティ福祉学部准教授 後藤広史 氏

タイトル： 貧困、ホームレス問題の解決策を考察するPBLの必要性和教育実践

内容： SDGsの課題（「貧困をなくそう」）をテーマに、貧困、ホームレス問題に対する社会的要因への理解とそれらの問題を捉える多角的な視点の醸成、具体的なアクションにつなげるための方法論の修得など、PBLの手法を用いた学修の展開事例を紹介する。

### 2. 意見交流の内容と事前アンケートについて

今年度は、問題発見・解決型教育(PBL)の推進に向けて、検討しておくべき教育体制及び教育方法等について論点を整理するとともに、学修環境としての学びのプラットフォームとファシリテータによる支援体制、ビデオ試問による思考力等の到達度点検・評価・助言の仕組みについて、意見交換を通じて実現可能性を探求するため、以下の4テーマで意見交流を行うとともに、参加者には意見交流のテーマに関連した内容のアンケート提出の協力を要請することを確認した。

- ① 地域社会及びSDGs（持続可能な開発目標）の課題解決を訓練するPBLの必要性和教育方法
- ② 知の創造を目指すICT活用の分野横断フォーラム型授業の進め方と課題
- ③ 学びのプラットフォームづくりとファシリテータによる支援体制
- ④ 外部者のビデオ試問による思考力等の点検・評価・助言モデルの仕組みと導入に向けた準備・課題

### 3. 開催日時と場所

開催日時： 令和元年12月14日（土）13：00～17：00

開催場所： 日本大学通信教育部市ヶ谷キャンパス

### 4. 事前アンケートの内容検討

意見交流の運営に役立てるため、参加申込者に任意でアンケートを行うことについて協議し、以下の内容とすることを確認した。

- ① 問題発見・問題解決を目指すアクティブ・ラーニングのPBL（プロブレム・ベースド・ラーニング、プロジェクト・ベースド・ラーニング）の導入状況
- ② PBL導入による主な教育効果について
- ③ 問題発見・解決型PBLのニーズについて
- ④ PBLの運営で特に必要と思われる教員の役割について
- ⑤ PBLを実施していく上での課題について
- ⑥ ICTを活用した「学びのプラットフォーム」（学修支援システム）に求められる機能について
- ⑦ ファシリテータの支援に求められる重要と思われる役割について

### V. 運営シナリオの検討と役割分担

各分野から選出された進行役委員は、アンケートを踏まえた運営を検討すること、次回は対話集会とし当日、進行役委員と話題提供者による事前打合せ会を実施することを確認した。